

歴史と文化を生かした川のあり方に関する調査研究

Study and Research on the Ideal River that Reflects History and Culture

研究第二部 部長 木村 吉晴

研究第三部 主任研究員 江上 和也

業務部 参事 星 博

河川は、舟運による人やものの交流、水防活動、祭りや信仰、風景、産業などを通して地域との関わりあいが強く、また人々の生活とも密接に関係していた。しかし、川と地域、人との関わり合いが段々と薄れ、人々の川に関する関心も薄れてきた。そのような中、今後の川づくりに当たって歴史・文化という視点から川の姿、河川と地域とのつながりなどを考えることも重要となってきている。

本調査は、このような背景の基に、熊本県の菊池川と岡山県の旭川をモデルに、歴史と文化という観点から、流域という枠組みの中で、川と地域や人との関わり等からこれからの川づくりへの視点等を整理することを目的に実施した。

その結果、歴史や文化を通して河川と地域との関わりあいを再認識すること、また遺跡の保全や伝統的な技術の保存の必要があること、さらに、地域との連携、伝統的な工法・計画論等の大切さが必要であることが明らかになった。

キーワード：流域、歴史と文化、知恵と工夫、遺産、交流、伝統技術、舟運、水防

Rivers tend to be deeply intertwined with the locale through human and material exchange stemming from shipping transport, flood control activities, festivities, religious rituals, landscaping, and industrial activities to name a few. Needless to say, the river has also been closely part of daily living of people, as well. However, the relationship between the river, community and people has gradually faded, and this has resulted in people's interest in the river to gradually fade, as well. Amidst such circumstances, it is becoming important to consider the ideal situation of the river with light on history and culture, as well as the relationship of the river and the community upon promoting future river development programs.

Backed by such reasons, this study took place in hope to define the perspective and other aspects upon future river development projects with consideration to the river and communication, and its relationship with people, within the framework of the basin, and from the perspective of reflecting history and culture, by using the Kikuchi river in Kumamoto Prefecture and Asahi River in Okayama Prefecture as the models.

As a result, we came to the following conclusion. We must re-realize the importance of the correlation between the river and community that we have learned through history and culture. There is also a need to preserve artifacts and traditional technology. Cooperation with the community is another vital aspect. The last but not least focus highlights the importance of traditional techniques and planning methods that have been practiced over the years.

Keywords: Basin, History and Culture, Wisdom and Measures, Heritage, Exchange, Ship Transport, and Flood Control.

はじめに

河川は、古くから地域との関わりが強く、時代毎に人々の生活や信仰、産業等に大きな影響を与え、舟運による交流が地域をつなぎ、また現在の河川はこうした地域との関わりによって形成されてきた。

しかし、河川整備の進展、水害の減少、都市化の進展や社会環境の変化等によって、人々の河川に関する関心が薄れ、河川と地域との関わりが忘れ去られるとともに、次第に河川から人々が離れていった。

しかるに、近年、河川が地域のシンボルとして見直され、河川に対する関心も高まり、住民参加の川づくり等も見られるようになった。

こうした背景のもと、歴史・文化という視点から、具体的な河川整備に当たって、どの

ようなことを考えていいかを明らかにする必要となってきている。

ここでは、熊本県の菊池川と岡山県の旭川の2河川の事例を基に、河川を中心とした地域とのつながり等の調査を通して論ずるものとする。

1. 調査手順

本調査の手順を図-1に示す。

河川と地域との関わりは、流域の自然条件とそこでの人々の営みが大きく影響している。こうしたことから、流域の自然条件、人文条件を把握し、それと歴史・文化との関係から、河川と地域との関わりについて検討を行い、歴史・文化の視点からの河川整備へのアプローチを整理した。

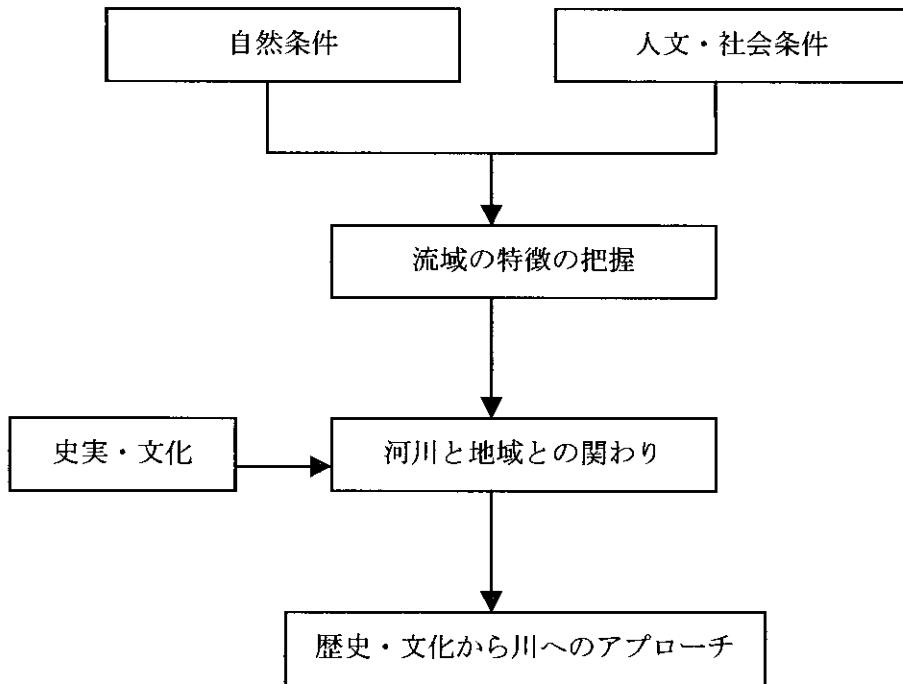


図-1 調査手順

Fig.1 Study Procedures

2. 河川と流域の歴史・文化の把握について

2-1 菊池川と旭川の特徴について

(1) 菊池川

菊池川は、阿蘇の西外輪山の深葉山 1,041m に源を発し、有明海に注ぐ流域面積 996km²、幹川流路延長 71km、支川数 66、流域内人口 22 万人の一級河川である。菊池川の特徴を概括すると次のとおりである。

<自然条件>

- ・阿蘇外輪山、菊鹿盆地、玉名平野等の地形条件と花崗岩等による地質条件により豊富な地下水を確保している。
- ・菊池渓谷等の豊かな森林の保水機能によって地下水が平時においても河川への伏流水として流出している。
- ・土砂の供給が肥沃な平野の形成と河口の干拓を容易にした。
- ・しかし、一方で土砂の供給による河床の上昇が洪水への被害を増長させてきた原因でもある。
- ・また、棚田や河畔林、水田等が地域の原風景を作っている。

- ・上流の土砂の供給が肥沃な土地を形成した。

- ・肥沃な土地を活用した水田開発と米の輸送のための舟運が発達した。

- ・国内外との交流が地域の文化を高めてきた。

- ・水を治めながら地域開発を進めてきた結果が今日の地域と菊池川を形成してきた。

<人文・社会条件>

- ・菊池川流域の肥沃な土地を活用した水田開発に伴い、生産物移送のための舟運が網目状に発達していった。
- ・舟運を活用していくための流路の固定や多目的堰の整備、経済拠点を確保するための遊水効果のある轡どもや石塘等の河川技術が発達していった。
- ・舟運航路を確保するために加藤清正の事業と言われている石塘等の遺構が所々に見られ、その舟運によって流域内外との交流や文化が醸成されていった。
- ・倭寇や朱印船貿易による大陸との交流によって経済・文化の発展に寄与してきた。
- ・菊池川流域から筑後平野へ水を供給するなど、流域を越えた文化が育っていた。

<特徴>

- ・菊池川は、時の為政者によって自然条件を巧みに生かしながら水を治め、地域開発を進めてきた結果が今日の地域と川を形成してきた。
- ・舟運が地域経済を興すとともに、その確保のための河川技術が発達していった。
- ・舟運が流域のつながりを強くし、高い文化の醸成に寄与してきた。

図-2 菊池川の歴史・文化からの特徴

Fig.2 Characteristics from the Historical and Cultural Aspects of Kikuchi River

(2) 旭川

旭川は、中国山地の朝鍋鷲ヶ山に源を発し、児島湾に注ぐ流域面積 1800km²、幹川流路延長 142km、支川数 147、流域内人口 69 万人の一級河川である。旭川の特徴を概括すると次のとおりである。

- ・3つの地形条件が旭川を形成している。
- ・河川の整備が災害に備えた都市づくりに貢献してきた。

- ・水路網の発達が人々の生活を安定させてきた。
- ・京橋や中島のような川沿いの資源が地域の発展に寄与してきた。
- ・岡山の発展は、災害・利水の面で左右され、自然条件が都市の基盤づくりに大きな影響を与えてきた。

<自然条件>

- ・中国山地、蒜山高原、岡山平野という地形条件毎に特徴ある地域区分によって地域が形成されている。
- ・洪水による下流への土砂供給が肥沃な岡山平野を形成していった。
- ・瀬や淵、礫岩、山地、渓谷、盆地等の地形条件が自然の風景を残していくとともに、そこから湧きだす清冽な水は清流として歌われている。
- ・沿川には河畔林としての水害防備林が残されており、洪水の軽減に役立っていた。
- ・高梁川、旭川、吉井川が相互に関わりを持った地形条件として成立している。

<人文・社会条件>

- ・流域の地形条件が産業や文化等地域毎に強いつながりを持ち、勝山や建部、岡山等の特徴ある町とたら製鉄や和紙づくり等の産業を育成する要因となってきた。
- ・上流のたたら製鉄が森林の荒廃と下流への洪水被害をもたらすとともに、肥沃な土砂の供給による貢献と文化をもたらしていた。
- ・熊沢蕃山の土砂扦止と上流の知恵や工夫の観察、津田永忠の百間川・荒手の整備等が岡山の災害に備えた都市づくりに寄与し、治水技術を発展させてきた。
- ・岡山城下の水路網の発達によって、農業用水、都市住民の飲み水等が確保でき、安定した都市づくりに寄与してきた。
- ・山陽道と旭川を活用した舟運の結節地にあった京橋や中島等の商業や文化の集積地が川沿いにあったことが岡山の発展に大きく寄与していた。
- ・東砂山のような水防小屋等が災害時に素早く対応でき、平常時は地域のコミュニティの場として活用してきたことが、地域の連携を育む一つとなっていた。

<特徴>

- ・旭川と地域は、地形条件によって特徴ある町を形成させ、特に下流の岡山の発展は、災害、利水の面で左右され、自然条件が都市の基盤づくりに大きな影響を与えた。
- ・洪水を媒介にして上流と下流のつながりを強いものとし、そこに治水の技術の知恵や工夫が生まれる土壤が存在した。
- ・都市の発展は、川沿いに見られる水防等の様々な活動があることによって、地域の連携を築く土壤となっていた。

図-3 旭川の歴史・文化からの特徴

Fig.3 Characteristics from the Historical and Cultural Aspects of Asahi River

3. 菊池川と旭川の特徴から理解される関わりからみたこれからの方向性

3-1 歴史・文化との関わりの把握

それぞれの地域によって自然条件と人文・社会条件は異なるが、それら条件は互いに影響しながら川と地域を形作ってきてていることから、その関わりを歴史・文化から紐解く必要がある。

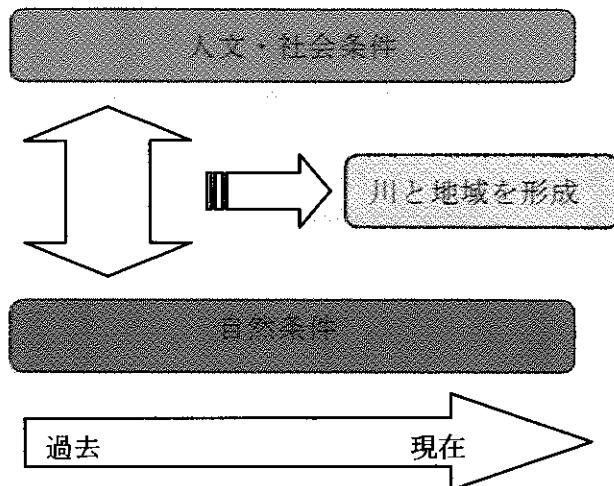


図-4 歴史・文化との関わり

Fig.4 Historical and Cultural Relationship

3-2 川と地域との関わりの捉え方

流域に生活する人々と関連する経済活動や自然とのつきあい方等が密接につながっていることを理解して、川と地域との関わりを学ぶことが必要である。

また、流域内で起こる様々な事象は、上中下流との関わりの中で生まれてくることが少なくないため、それぞれの関係を充分に把握し、流域全体を理解していく必要がある。

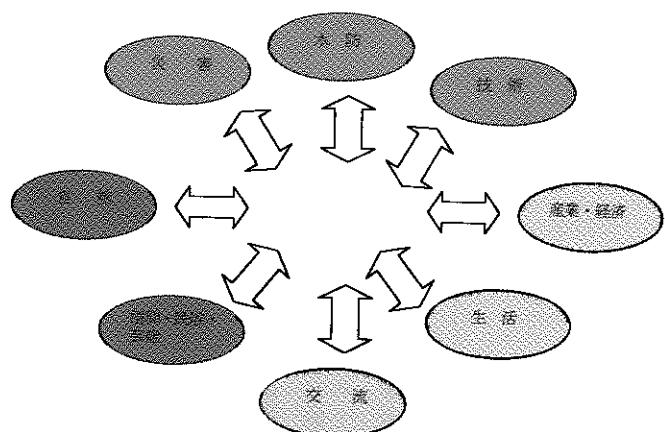


図-5 川と地域との関わりの対象

Fig.5 Target Relationship Between River and Community

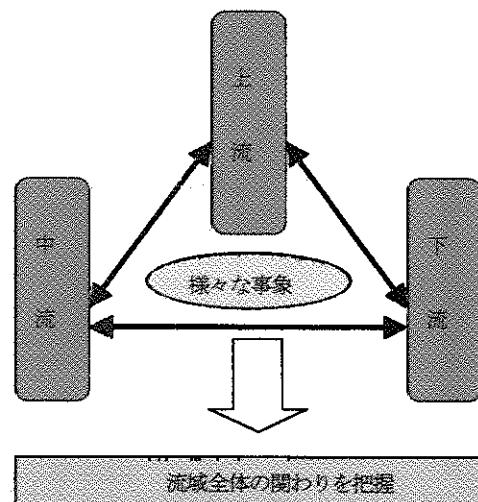


図-6 流域全体からの関わり

Fig.6 Relationship from the Aspect of the Entire River Flow Area

3-3 川と地域との関わりを理解していく視点

川と地域との関わりは、切り口によってその見方も様々である。これからの川づくりを考える上で、菊池川と旭川の特徴から川と地域の関わりを理解していく主要な視点は、次のように整理することができる。

- ・流域の自然の成り立ちを理解する。
- ・人の生活に必要なものと川との関わりを

平水気
野量温
・
溪地氣
谷下候
・水等
山地雨
等の氣象
条件
地形条件
等水文条件
地形条件
等自然条件

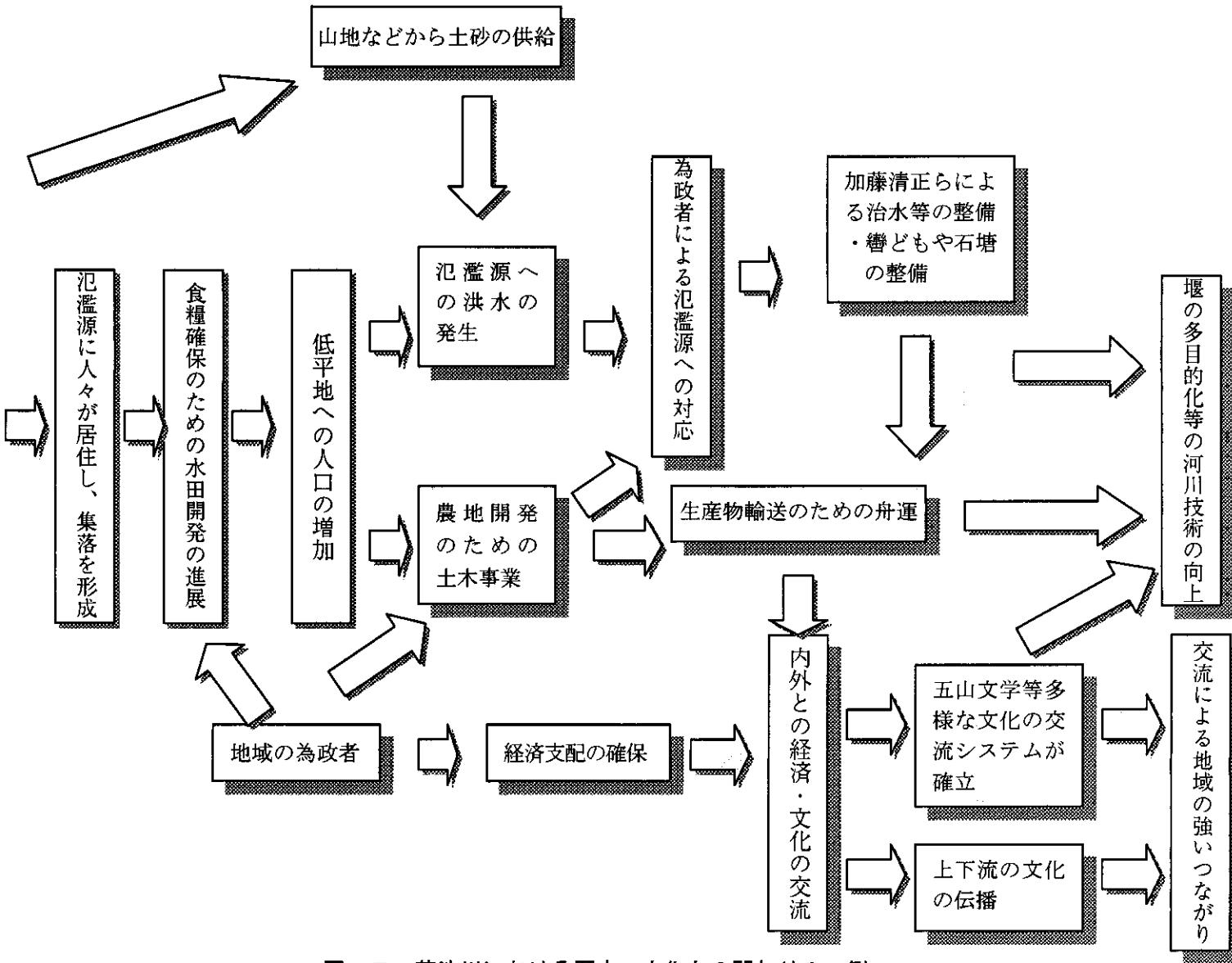


図-7 菊池川における歴史・文化との関わりの一例

Fig.7 Example of the Relationship Between History and Culture in Kikuchi River

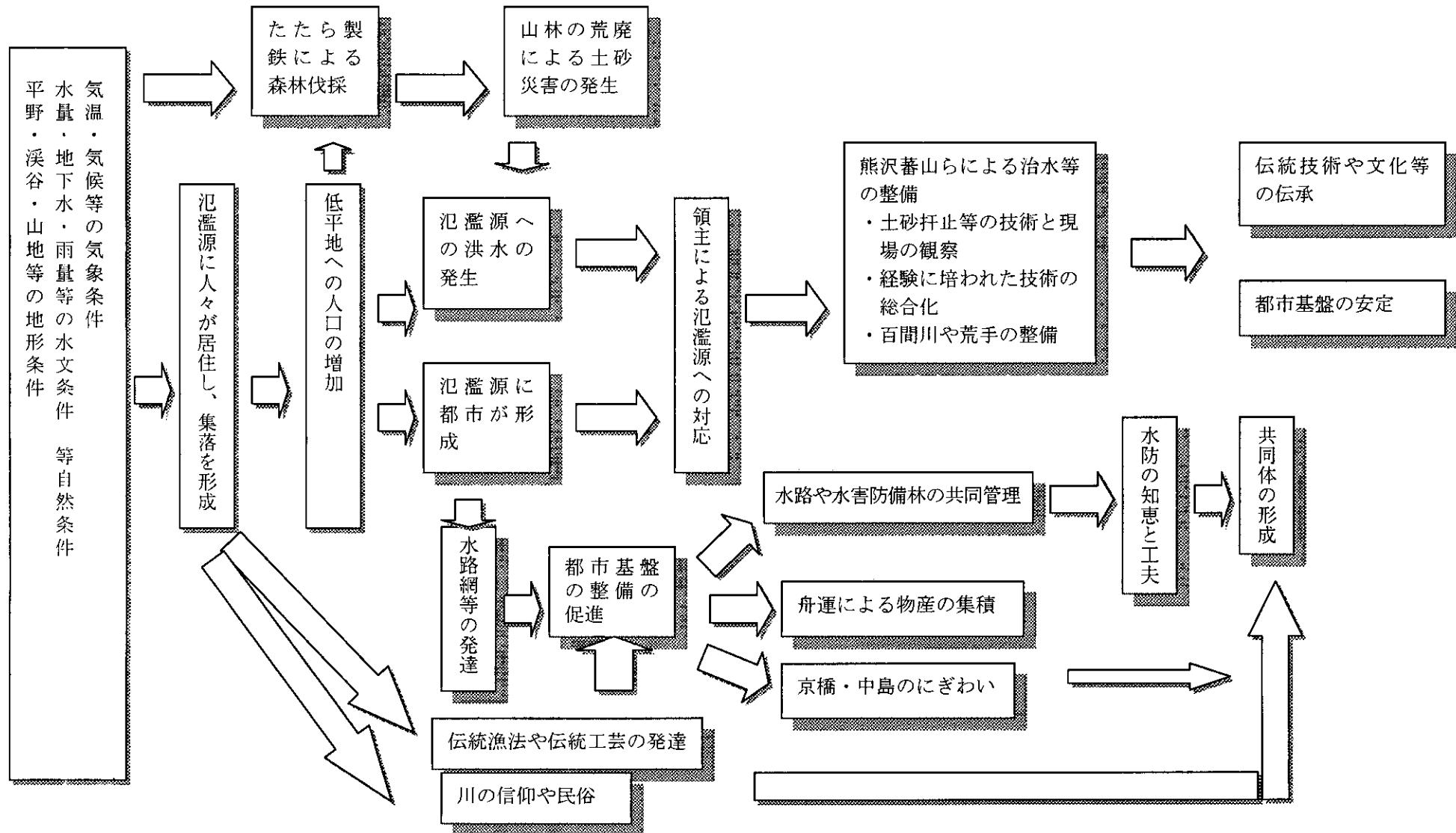


図-8 旭川における歴史・文化との関わりの一例

Fig.8 Example of the Relationship Between History and Culture in Asahi River

関わりから理解した一例

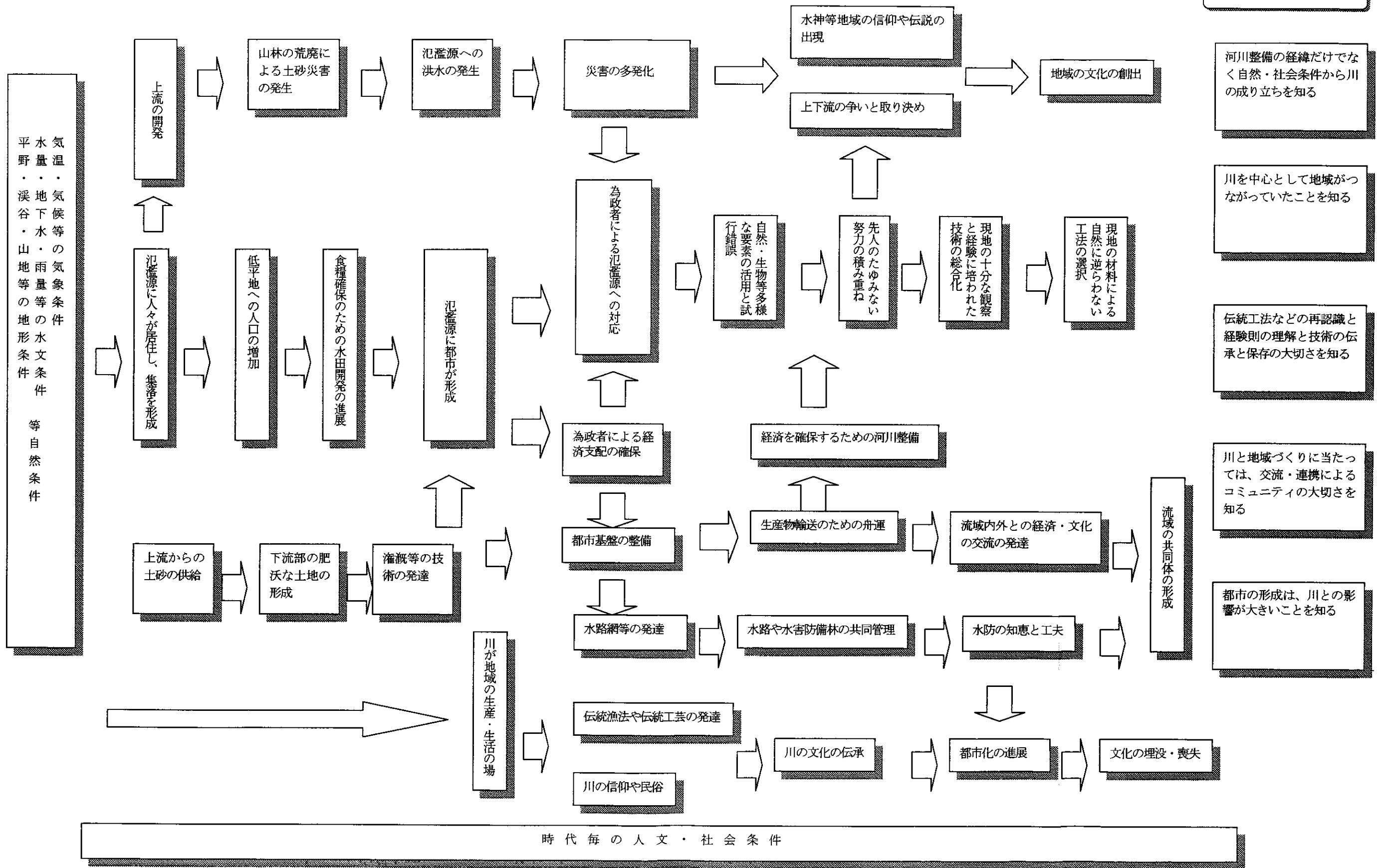


図-9 川と地域との関わりの一例

Fig.9 Example of the Relationship Between River and Community

理解する。

- ・災害による人や地域への関わりを理解する。
- ・現地の事象に関して十分な観察による技術が使われていたことを理解する。
- ・川が人々の営みの中心であったことを理解する。
- ・川が地域の伝統文化を育んできたことを理解する。

3-4 これからの方針

菊池川及び旭川と沿川の歴史・文化の関わりに見られたように、自然条件を土台に河川とその地域における人々の活動や生活と密接に関連し、またこれまでの多くの先人のたゆみない河川の整備がそこに大きく関わっている。

そのため、菊池川と旭川から考えられる歴史・文化の視点からの川づくりの方向性としては以下の通りである。

- (1) これからの川づくりに必要な視点
 - 1) 河川と地域のつながりを再認識していくことが必要である。
 - 2) 従来、河川が地域の日常生活と密接に関係していたことに思いを致すことが必要である。
- (2) これからの川づくりのための方策
 - 1) 河川に関する史跡、地物や風景、あるいは伝統的な技術などを把握しておくことが必要である。
 - 2) 必要に応じて、河川の整備と合わせて遺跡などの保全に努めていくことが必要である。
 - 3) 伝統的な文化や技術がなくならないよう方策を講ずることも必要である。

4. 川の歴史・文化からのアプローチ

4-1 歴史・文化を調べる視点

① 「現在から過去（問題発見型）」

既往の文献（郷土史、流域史等）から主に今の川と地域の成り立ちを知る

② 「過去から現在（認識再確認型）」

川と地域との関わりについて過去から時間を追って知り、その地域の特徴を理解してゆくこと

- ③ 双方向からアプローチしてゆくことによって新たな事実等を知る手がかりを得る。
- ④ 時間と手間はかかるものの、根気よく調べ、継続して検討してゆくことが必要である。

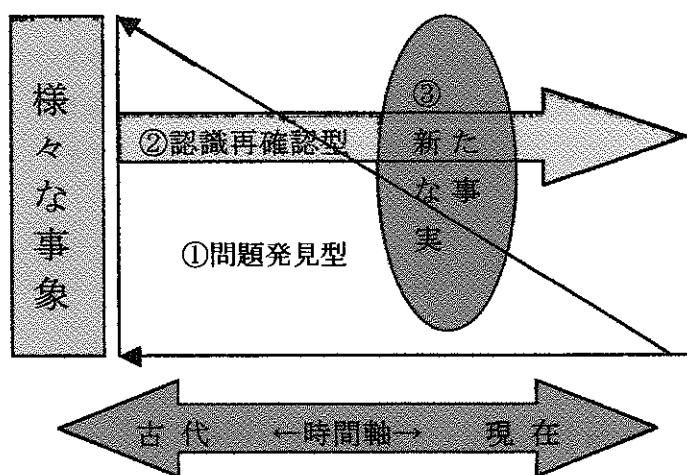


図-10 アプローチの概念

Fig.10 Overview of Approach

4-2 歴史の捉え方

川の歴史・文化の学び方は、それを何に活用するかによって大きく異なることから、次のような捉え方が考えられる。

- (1) 歴史・文化は範囲が広いため、一朝一夕に分かるものでないこと
- (2) 史実に対して多様な見解があることから、全てを知ろうすると多くの時間を要することそのため、これからの川の姿を考えるために川に関する歴史・文化を知る場合、その目的を明確にし、それに必要なことを知るように努め、必要に応じてさらに深めるようなことが望ましい。

4－3 地域を通じた歴史・文化の把握

地域を通じた歴史・文化を把握していくための方法として以下のようなことがあげられる。

- (1) 自らの限界を理解し、どのような情報が流域にあるのかをまず調べる。
- (2) 郷土史家等地域の有識者との連携を図りながら進めてゆくことが重要である。
- (3) 歴史や文化に関することは、現在分からなくとも将来分かることもあることを理解し把握に努める。
- (4) 日頃から川を見ている人々とのつきあいが大事であるとともに、流域に住む古者等のいろいろな人からの情報を得る努力を行う。

6.まとめ

今回は、川と地域の歴史と文化をどのような視点で捉えて考えていくか、そして河川と地域との関係を再構築していくために、どのような取り組みが考えられるかを調査した。

その結果、次のようなことが明らかになった。

- (1) これから河川のあり方を考えるときに、歴史・文化という観点から流域と川との関わりや流域に生活する人々と川との関わり等を理解することが重要であり、例えば、旭川における熊沢蕃山の土砂扦止と津田永忠による百間川や荒手の整備等があげられる。
- (2) 遺跡の保全、伝統的な技術や工法の保全等への取り組みや、またかつての河川の計画論等を調査し、川づくりへ反映させることが重要であり、例えば、菊地川の白石堰のような治水と用水と船通しが交わった技術、旭川の石を活用した技術等があげられる。
- (3) 流域の歴史や文化を学ぶ目的を明確にし、川づくりや地域づくりに生かしていくことが重要であり、例えば、菊地川における流

域の開発と加藤清正の治水対策があげられる。

また、今回の調査を踏まえて次のような課題があげられる。

- (1) 菊池川や旭川の調査を通して理解できた視点以外にも、地域によってはその関わりが異なることから、東北地方等の他の河川での事例から具体的に調査していく必要がある。
- (2) 現在の河川の姿は、戦後の河川事業によるところが大きいと考えられることから、歴史・文化という観点から、戦後の流域と河川との関わり等を調査・検討し、これからの川の姿を考えていく必要がある。
- (3) 歴史・文化を通して河川に関連する施設や河川の技術等がどのように地域と関わってきたか等を具体的に調査する必要がある。

7.おわりに

この調査に熱心なご指導・ご意見をいただいた懇談会、菊池川並びに旭川の検討会の各委員へ感謝と敬意を表します。

また、ご指導並びに貴重な資料を提供された建設省九州地方建設局、菊池川工事事務所、岡山河川工事事務所及び資料等を整理された八千代エンジニアリング（株）、その他資料を提供していただきました方々に謝意を表します。